おうちで田んぼ

たねからお米をそだててみましょう！

～わら編～

「おうちで田んぼ」もいよいよ最終回です。お米をとった後にのこった草。わらのお話しです。お正月のわら細工にまにあわなくてすみません。

たねからお米をそだてるながれ

事務局“こめたいちょう”の
神田浩行も応援します！

1　たねを眠りから覚ましましょう　～浸種・発芽～
2　苗をそだてましょう　～育苗～
3　お引っ越ししましょう　～田植え～
4　水をやりましょう　～水やり／防鳥～
5　収穫しましょう　～いねかり～
6　乾かしましょう　～天日干し～
7　もみをとりましょう　～脱穀～
8　春をむかえる準備をしましょう　～種取り～
9　皮むきしましょう　～もみすり～
１０　いよいよたべましょう　～玄米～
１１　わらをつかってわら相撲をつくってみましょう　～わら細工～

１１　わらをつかってわら相撲をつくってみましょう　～わら細工～

わらをたいせつにしないとわらわれてしまいます

今週はじめ、千葉の馬来田の田んぼでとれた稲の草＜わら＞を整理してきました。わら細工用、畑の敷きわら用、来年の稲刈りの束用をとっておきました。残りのわらは短く切って半分は田んぼの肥料用の堆肥にして、残りの半分はそのまま田んぼにまきました。

このように「わら」は捨てることはなく、日常生活でも生活用具になったり、来年用の材料や肥料に変身します。そのために昔の稲作農家は、「わらを焼いたらわらわれる」というふうに言われ、わらをゴミとして燃やすのでなく、お米と同じくらいに大切にして暮らしてきました。

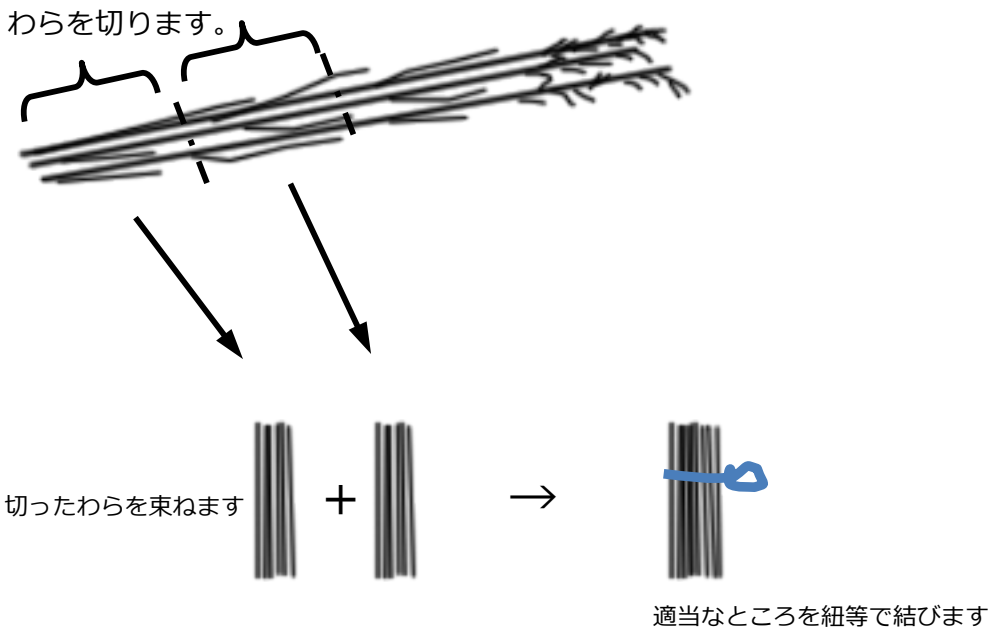
今回は子どもと楽しむわら細工といろいろなわら細工についておつたえします。

①子どもと楽しむわら細工

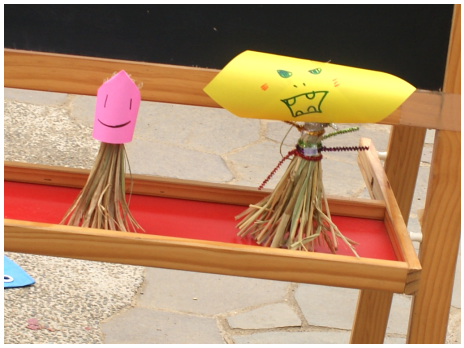
こめたいちょうは、幼稚園や保育園などで子どもたちとわら細工をしています。今回はその中から簡単なわら細工「わら相撲」をご紹介します。

作り方は簡単です。

わらを 10 センチくらいの長さに切ります。きったワラを束ねて輪ゴムや紐でとめます。



折り紙やモール、毛糸等で装飾をして
できあがりです。



装飾やわらの長さも自由です。どうやったらうまく立つか工夫しながらつくりましょう。

土俵をつくって、トントン相撲のようにハッケヨイ！とお楽しみください。

②生活でつかわれていたわら細工

その昔、わらは暮らしの一部（実は大部分）を担っていました。衣食住、運搬、包装、遊具、神具などあらゆる場面で使われてきました。

＜昔のわらの道具の例＞

▲ひつ入れ（ご飯が冷めないように鍋釜をいれたカゴ）

▲草履

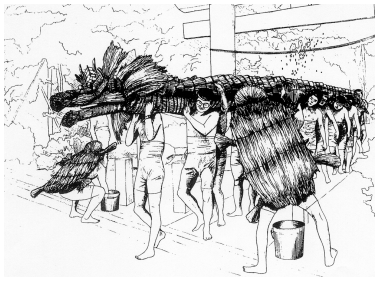
▼鍋敷き

▲ゆき蓑（みの）昔の合羽

▲背中あて（運搬具／防寒具）

▲わら沓

▼かんじき（雪道の歩行用履き物）



雨乞い竜（中原区宮内　春日神社）

＜いまのわらの例＞

相撲の土俵

門松

しめかざり

ねこちぐら

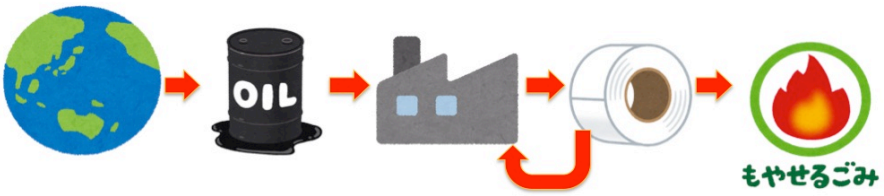
③　わらはなぜ減った？

日本の生活で大切な役割を果たしていたわらの利用が少なくなったのはなぜでしょうか。やはりプラスチック、ビニールという便利な原材料ができるようになったことが大きな理由です。人の暮らしが工業製品に移行してきたためです。

わらからプラスチックになったことで、便利さをもたらした反面、副作用ともいえることがあります。それは、わらは再生可能資源・循環型資源でしたが、プラスチック類は原料が化石燃料で、一方通行の消耗型資源であることです。また最近問題となっている海洋プラスチックごみの原因にもなってしまっています。

あらためて、「わらのよさ」を感じてもらえればと思っています。

ほぼ一方通行（一部リサイクル）



循環　（省エネルギー）

バケツ田んぼの根っこはどうするの？

もし今年も取り組む場合は、使わないわらを刻んでバケツにいれ、土と根っこといっしょにまぜてください。そうすることで土に空気をいれます。そのまま春までおいておきます。

さいごに：「おうちで田んぼ」はいかがでしたでしょうか。

お米ができたおうちも、残念ながら途中でかれてしまったおうちもあったようです。コロナの中で急遽はじめた取り組みで、がんばってお伝えしてきましたが、十分育たなかったおうちのお子さんには申しわないと思いながらも、楽しまれている様子をおしらせくださるおうちもあり、ちょっとよかったとも思っています。

今年はぜひ実際の田んぼにきて、田んぼのたのしさを親子で全身で味わってほしいとおもっています。

こめたいちょうもくすのきスタッフもみんな田んぼで待っています！